

標題

ぶどう産地再生に向けて生産部会と出雲農林高校が連携！！  
～優良系統デラウェア苗木の安定生産・供給に向けて～

(ダイジェスト)

JAしまね出雲ぶどう部会は産地再生に向けて優良系統デラウェアへの改植を進めています。この度、部会から出雲農林高校に「ぶどう課題研究用ハウス」が無償で貸与され、5月12日に苗木の植栽式が開催されました。部会と同校が連携することで優良系統デラウェア苗木の安定生産と供給を目指しています。

出雲はデラウェアの主産地ですが、近年、農家の高齢化や担い手不足、樹の老木化等により栽培面積や出荷量が減少しています。そのため、JAしまね出雲ぶどう部会は産地の再生に向け、デラウェア優良系統への改植を進めていますが、苗木の育成を県外の業者に依存しているため、生産者からは県内での苗木生産が求められていました。

この度、優良系統の改植で産地再生を目指すぶどう部会と、ぶどうの課題研究を行いたい地元の出雲農林高校が、地域内での優良系統苗木の安定生産に向けて、連携することになりました。部会と同校にぶどう課題研究用ハウス約2aを無償で貸与し、同校はハウスを課題研究に活用しながら、部会へ苗木の安定供給を行います。

5月12日には苗木の植栽式が開催され、関係者のテープカットに続き、生徒や部会役員、関係機関による苗木の植栽が行われました。その苗木は今年3月に農業技術センターで生徒自らが接木し、育成したもので、島根県東部農林振興センターの中村純一所長からは「県内でも産官学連携の事例が数多く見られる。皆様の活動が地域全体の活性化に繋がるよう期待している。」とあいさつがあり、生徒も「定植後の管理もしっかり行い、農家へ良い苗木を供給したい。」と意欲を見せていました。

また、5月18日には、農業技術センターと出雲農業普及部の職員が、生徒に対し課題研究のテーマ設定に向けての授業を行い、同校での苗木育成と課題研究が本格的にスタートしました。

今後、普及部は関係機関と連携し、同校の課題研究に協力すると共に、優良系統苗木の管理指導と安定な供給ができるよう継続的な支援を行うことにしています。



部会、農林高校、関係機関によるテープカット



生徒による苗木植栽の様子